

歌舞何座印象断片

34 味 4 代

双蝶々曲輪日記

○源三郎の濡髪おの顔が錦繪の様に美しくう
 たのふ今も目にのニりし居ります。いとた
 をまとりし手拭を頬うむりしし出て来た時も
 又幕切人に合羽をきし笠をかたむけし花道
 のつけ和はに立つた時も
 ○時藏のお早お大変よろつたと思ひます。
 鳥辺山心中

○半九郎が鳥辺山を指したあたりで、漸く
 美しい悲しみの中に幕切人にしたうつれと思
 ひます。おんかういりる人物がごたふと
 出てきたり、半九郎とお染とが鳥辺山とは
 反対の本花道へさしりたり美するやは折
 角の情誦をうきみだす小の様ふ気おしちり
 もありません。
 ○松茸のお染ははじめ出てきた時、顔がふけ
 た様に思はれました。着物の色も濃すおし
 休と長します。